

新潟県蒲原山地西部における足尾帯の地質構造

Geological structure of the Ashio Terrane in the western part of the Kambara Massif, Niigata Prefecture, Southwest Japan

内野 隆之^{1*}

Takayuki Uchino^{1*}

¹産業技術総合研究所地質情報研究部門

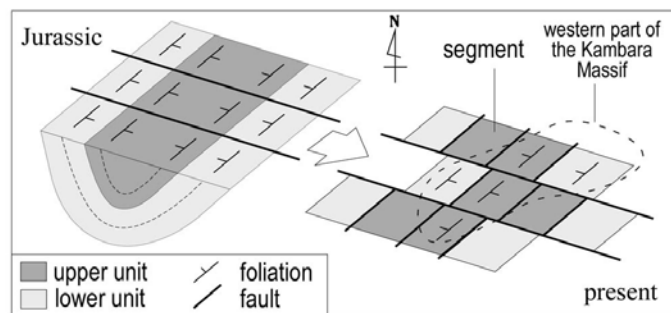
¹Geological Survey of Japan, AIST

足尾帯は糸魚川 - 静岡構造線と棚倉構造線の間分布する西南日本内帯のジュラ紀付加体からなる地帯である。足尾帯の付加体は、白亜紀-古第三紀花崗岩類の貫入や第三系の被覆などにより断片的であるが、足尾山地・八溝山地・魚沼山地・帝釈山地・蒲原山地・飯豊山地・朝日山地にまとまって分布している。蒲原山地・飯豊山地・朝日山地の付加体については、これまで付加年代が不明であった

が、最近、蒲原山地西部の泥岩から放射虫化石が見出され、蒲原山地の付加年代の一部が前期ジュラ紀であることが明らかになってきた(内野, 2009; 内野・堀, 2009)。しかし、地質構造に関しては不明な点が多く、演者は詳細な岩相把握と微化石年代から、地質構造の解明を目指している。本講演では、これまで得られた蒲原山地西部における足尾帯の地質構造のデータを基に、付加体形成後(ジュラ紀以降)のテクトニクスを議論する。

蒲原山地西部の付加体は砂岩泥岩互層を主体とし、緑色岩・石灰岩・層状チャートの小~大規模岩体を含む。5万分の1地質図規模では、全体として混在相を示す。付加体はその岩相及び構造的上下関係から、碎屑岩が卓越する下部と緑色岩・チャートが卓越する上部に区分される。付加体構成岩類の層理面及び鱗片状劈開面の走向は、おもに北東-南西ないし北北東-南南西を示す。

蒲原山地西部の付加体は、ジュラ紀以降に活動した北西-南東及び北東-南西系の断層群によって“セグメント”化されている。セグメント内における付加体の大局的な傾斜(北西あるいは南東)は、走行方向に隣接するセグメント同士で一致しないことがある。一方、走行方向に垂直な方向で隣接するセグメント中の一連の傾斜と、付加体の下部・上部の構造的上下関係は一致している。したがって、蒲原山地西部の付加体は、もともと向斜構造をなしており、向斜構造の“東翼”と“西翼”に相当する地塊が、ジュラ紀以降の横ずれ運動によって変位し、現在の地質構造を形成した可能性がある。



キーワード:蒲原山地,足尾帯,前期ジュラ紀,付加体,向斜,テクトニクス

Keywords: Kambara Massif, Ashio Terrane, Early Jurassic, accretionary complex, syncline, tectonics